

【例題－高卒農業8】

果樹の整枝・せん定に関する次の記述について、正しいものはどれか。

1. 主幹・主枝・亜主枝・側枝の力関係は、できるだけ差がつかないようにせん定することが重要である。
2. 落葉果樹のせん定は、冬季せん定を主体に行うが、夏季せん定は、樹勢低下への影響が少ないため積極的に行い、樹冠内部への透光性をよくする。
3. 主幹形は、主幹を短く、約60～90cmとし、主枝は2～4本、斜めに立てる仕立てであり、枝が開帳しやすいモモ、ウメ、スモモ、カンキツなどで採用される。
4. 立木仕立てにおける変則主幹形は、主幹を2～3mの高さで切り、主枝を4本程度配置する樹形で、リンゴの若木、カキ、クリなどの成木に用いられる。
5. 切り返しせん定は、風通しや樹冠内部への日照を良好にするため等に、混みあった枝について、枝の発生部や分岐部で、基部からすべて切り落とす方法である。

(正答) 4